

# ゆめ わらわ 夢 立身

菅波 茂

8月7日から3日間、所属した。普段は入るこ  
第7回スリランカ復興和 とがない施設だけに興味  
平青少年交流プログラム 津々だった。それぞれの  
を実施した。場所はスリ 聖職者の温かい歓迎のあ  
ランカ中部の山あいにあ いさつと説明は、私にと  
る人口20万人のマータレ っても素晴らしい体験と  
ー市。キリノッチから24 になった。

人、トリンコマリから 2日目。午前中は日本  
22人、マータレー市から 文化と日本の戦後の歴史  
24人の中学生。日本から におけるスリランカとの  
も中学生1人、高校生3 関係などを紹介。同時に  
人、大学生と大学院生各 地元の総合病院の協力で  
1人が参加、計76人が2 より巡回診療を校舎内で  
泊3日の合宿形式で交流 実施した。夕方から不思  
を深めた。 議と月夜になり、キャン

雨が断続的に降ってい プファイアで各グループ  
た。初日の午前中は開会 が歌を披露。うらじゃ踊  
式に続き、参加者の絆を りを契機にスリランカ特  
深めるゲーム。午後は宗 有のインド映画の影響を  
教施設の訪問。参加者は 受けた切れの良い踊りの  
仏教、キリスト教、ヒン 乱舞となった。民族、宗  
ズー教、イスラム教のい 教、言葉、性別や年齢も  
ずれかの宗教グループに 関係がなく、一体感が高

## スリランカの青少年交流

まった不思議な光景だっ た。

3日目は演劇交流と関 ち、シンハラ、タミル  
係者のスピーチ。最後に とタミルムスリムの三つ  
参加証明書と感謝状授与 のグループの地域で日章  
で終了となった。参加者 旗をつけて巡回診療をし  
が言語を超えるコミュニ てほしいと電話連絡があ  
ケーション能力による喜 った。内戦の激化により  
びを経験したのが最大の 動の空白があったが、時  
成果。復興和平への相互 がたつのは早くて来年に  
理解のステップである。 は15周年となる。復興支  
援を更に強化したい。

2003年1月に明石 具体的には次の3カ年  
康スリランカ復興支援日 計画である。①青少年交  
本政府特別代表から私た 流プログラムに平和教育

を加味する②人材育成の ための奨学金でコロンボ  
大医学部生の金額を増や して小学校枠を3校から  
15校に増やす③AMDA クラブを設立して小規模  
融資を開始する④「学校 保健」推進として03年か  
ら3年間実施した学校健 康新聞の復刊——など。

相互理解が相互信頼へと 発展する。

和解と団結オフィス (会長は元バンダラナイ  
ケ大統領)からの高い評 価をいただいた。多数の  
死者を出した内戦が終わ った間もない時期に政府  
主導による各グループ和 解の試みには限界がある  
ようだ。来年には広島県 知事の「平和への親書」  
を届けることになった。

次世代プログラムとし ての活用。AMDA中高  
校生会が成長して来年は 広島県の高校生と赤磐市  
の中学生が参加予定であ

る。TAPP(トリプルA パートナーシップ・プロ  
グラム)としてコロンボ 大医学部とキリノッチ地  
区総合病院を研修の場と する。200床、外来70  
0人、16人の医師、70人の 看護師。月200件の病  
院出産と助産師家庭訪問 支援体制。1日40件の救  
急医療。出血性デング熱 やレプトスピラ症などの  
熱帯病があるものの、マ ラリア患者の発生はな  
い。在宅訪問診療。加えて ホームステイによる文化  
交流を予定している。

なお、スリランカは清 潔な国である。政府がデ ング熱を媒介する蚊対策 の環境整備を進めている から。家ごとにチェック され、違反金は約2万円 とのこと。今後とも、当 プログラムに皆様のご理 解とご支援がいただけれ ば望外の喜びである。(AMDAグループ代表)



第7回スリランカ復興和平青少年交流プログラムの開会式には各宗教グループも迎えた